

ビワ生育情報

第 8 報
千葉県農林水産部
令和 5 年 5 月号

5月1日時点での幼果の発育は3品種とも平年より早いため、収穫期は平年より早いと予想されます。収穫の準備を早めに進めましょう。

果実の発育

5月1日現在のビワの果径を表1に示した。横径は「楠」が3.62cm、「大房」、「田中」は3地区の平均でそれぞれ3.82cm、3.45cmであった。平年と比較すると「楠」は122%、「大房」は129%、「田中」は127%であった。

縦径は「楠」が4.03cm、「大房」、「田中」は3地区の平均でそれぞれ4.00cm、3.84cmであった。平年と比較すると「楠」は126%で、「大房」は131%、「田中」は128%であった。

果形指数は「楠」が0.90、「大房」、「田中」は3地区の平均でそれぞれ0.96、0.90であった。本年の果径指数は「楠」は平年より小さく縦長の傾向、「大房」、「田中」は平年並みである。

果実の発育は、3品種とも平年より早く推移している。今後の気象にも影響されるが、収穫期は平年より早いと予想される（各品種の平年値は前年の7月号を参照）。十分に肥大する前に着色が始まる場合もあるので、収穫適期を逃さないよう注意が必要である。

表1 果実の発育（5月1日の果径）

品種	調査地点	横径（cm）			縦径（cm）			果形指数		
		本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
楠	暖地園研	3.62	2.95	3.21	4.03	3.18	3.69	0.90	0.93	0.87
大房	青 木	3.87	3.01	2.81	4.03	3.10	2.94	0.96	0.97	0.96
	南 無 谷	3.86	3.03	2.89	4.27	3.10	3.02	0.91	0.98	0.96
	暖地園研	3.72	2.87	3.05	3.71	2.98	3.22	1.00	0.96	0.95
	平 均	3.82	2.95	2.92	4.00	3.04	3.06	0.96	0.97	0.95
田中	青 木	3.37	2.74	2.16	3.66	3.03	2.67	0.92	0.91	0.81
	南 無 谷	3.50	2.72	3.05	3.95	3.02	3.27	0.89	0.90	0.93
	暖地園研	3.50	2.72	2.98	3.92	2.98	3.40	0.89	0.91	0.88
	平 均	3.45	2.72	2.73	3.84	2.99	3.11	0.90	0.91	0.87

果形指数：横径／縦径

平年：平成5年～令和4年の30年間の平均

南無谷は平成10年～令和4年の25年間の平均

令和5年4月の気象

令和5年4月の半旬別の気象を表2に示した。平均気温は第1～第4、第6半旬は平年よりも高く、第5半旬は平年よりも低く推移した。月平均気温は15.9℃で、平年より1.9℃高く、前年より1.0℃高かった。

降水量は第3、第6半旬は平年よりも多く、その他半旬は平年より少なかった。月合計は135mmで平年の80%、前年の192%であった。

日照時間は第1～第4半旬は平年よりも多く、第5半旬は平年よりも少なく、第6半旬は平年並みであった。月合計は207時間で平年の116%、前年の132%であった。

表2 令和5年4月の気象(暖地園芸研究所)

半旬	平均気温 (℃)			降水量 (mm)			日照時間 (hr)		
	本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
1	13.5	11.9	8.9	4	27	28	42	30	17
2	15.4	13.2	15.9	18	30	0	40	30	49
3	16.7	13.5	16.4	60	30	3	31	29	27
4	17.2	14.4	13.6	2	29	4	43	28	13
5	14.7	15.1	18.3	0	29	32	21	30	37
6	17.8	15.7	16.4	52	23	4	31	31	14
平均/計	15.9	14.0	14.9	135	169	70	207	177	157

平年：1991～2020年の30年間の平均

なお、表の数値は表示単位未満を四捨五入したため合計値と内訳の計が一致しない場合がある。

6月の作業

例年であれば6月前半には梅雨に入り曇雨天の日が多くなる。5月から収穫が続き、晩生の「田中」でも6月中下旬には終了する見込みである。品質の良い適熟果を出荷し、市場や消費者の信頼を得るように心がけたい。

果樹カメムシ類の予想発生量はやや少ないとされている（令和4年度病害虫発生予報第11号、令和5年3月15日）が、ビワ園への飛来に注意し、薬剤防除に取り組めるように準備する。防除に際しては千葉県農作物病害虫雑草防除指針に従う。

夏肥（礼肥）は収穫後の樹勢の回復及び夏枝の伸長と花芽分化を促すために必要である。収穫直後に速効性肥料を施用する。10a当たりの施肥量（成分量）は、耕土の浅い園で窒素5kg、りん酸4kg、加里4kg、耕土の深い園でそれぞれ5kg、3kg、3kgを目安とする。

台木の播種は、梅雨明け前に発芽させるように、早めに行うことが肝要である。

【問合せ先：千葉県農林総合研究センター暖地園芸研究所特産果樹研究室 電話 0470-22-2961】

※果樹の生育情報は「ちばの農林水産業」の「生育情報」でも御覧いただけます。

<http://www.pref.chiba.lg.jp/seisan/seiiku/index.html>